

すみだ地域学情報

発行：墨田区教育委員会(生涯学習課)
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎03-5608-6309 ☎03-5608-6411 ✉syougaiakus@city.sumida.lg.jp

ふれあい活力 ゆとり

すみだ

We!

創刊号

2007年
(平成19年)
7月発行



東京名所第一之勝景墨水堤花盛の図 三代広重(すみだ郷土文化資料館所蔵)

すみだが歩んだ歴史 墨田区の誕生から、いまをたどる①

新タワーの高さは世界一

押上・業平橋地区に建設が決定した新タワーは、制御システムとして、中央に「心柱」をもつ五重塔の構造を採用しています。ベース部分は三角形で安定を図り、隅田川・荒川に囲まれた同地域の形状を象徴。日本刀や伝統的日本建築などに見られる緩やかな曲線「そり」と「むくり」を意識し、頂点へ近づくにつれて円形へと変化します。

新東京タワー株式会社と東武鉄道株式会社では、2011年(平成23年)の開業を予定。高さは、電波塔としては世界一の約610メートルになる予定です。

また新タワーのオープンに向けて区内外からの多くの観光客の皆さんを「おもてなしの心」で迎えるため、区民の皆さんがすみだの地域について学ぶ「すみだ地域学セミナー」(墨田区教

育委員会主催)もスタートしました。

5月19日に実施したセミナーでは、デザイン監修者の1人である澄川喜一氏(彫刻家、元東京藝術大学学長)から「日本の心」をコンセプトに入れたことを、また山崎区長から観光都市づくりの意気込みが語られました。(東武鉄道・新東京タワー(株)写真提供)



墨田区の名称由来
墨田区は、昭和22年(1947年)3月15日に、北部区域の向島区と南部区域の本所区が一つになって誕生しました。そのときに、新しい区の名前として「墨田区」と名付けられました。
それは、昔から広く人々に親しまれてきた隅田川堤の通称「墨堤」の呼び名の「墨」と、「隅田川」の名の「田」の2字を選んで名付けられたものです。

墨田区の立地
墨田区は旧利根川水系と荒川水系の河口デルタ地帯に発達したために、これまで幾多の水害に悩まされ、明治44年(1911年)から20年に渡って荒川放水路の掘削工事が行われるなど河川の改修が進められてきました。
区の面積は13・75平方キロメートル、海面からの高さは最高4メートル、最低マイナス1・2メートルの平たんな低地となっています。

お知らせ

講師派遣制度が始まりました

「すみだ地域学セミナー」の一環として、区民の皆さんの団体・グループ・関係機関・企業などがすみだの地域について学ぶ学習会に、講師を派遣します。

●派遣する団体

- ・メンバーが10名以上で、かつ、その半数以上が墨田区内に在住または在勤している団体
 - ・区内に活動拠点のある関係機関及び営業拠点のある企業
- ### ●派遣する学習会
- ・団体等が自主的に行う学習会、研修会または講演会
 - ・受講生はおおむね20人以上を目安に募ること
 - ・テーマがすみだの地域に関わるものであること
 - ・政治活動、宗教活動または営利活動を目的としないこと

●学習内容

すみだの地域に関わる、歴史、文化財、伝統文化、地域イベント、区政、産業、まちづくり等を学ぶことをとおして、すみだを訪れる皆さんを「おもてなしの心」で迎えることに資する内容であること

●派遣時間

原則として1回2時間以内

●講師料

無料

●会場の確保

主催者が確保すること

●申し込み

実施希望日の1か月前までに、教育委員会事務局生涯学習課へ、5608-6309

緑図書館文化講座情報

●8月12日(日)

【座談会】終戦の頃のすみだ

【資料展】戦時から戦後へ

【ミニ文学展】墨田区ゆかりの作家 半藤一利

●9月9日(日)

【講演】すみだのゆかりと私のコレクション

【講師】小島惟孝氏

【資料展】小亭文庫(小島氏)コレクション すみだゆかりの品々 いずれも午後2時～4時、緑図書館3階学習室(資料展は1階展示コーナー/ミニ文学展は3階展示ケース内)、無料、当日会場受付、60名まで入場可

●会場
緑図書館 緑2-24-5

●問合せ
3631-4621

展示

●特集展示「隅田川の花火展」

江戸時代から明治時代までの隅田川での花火の様子を、資料館所蔵の錦絵・銅版画を通して紹介しています。

【展示期間】9月4日(火)まで

【主な展示資料】三代歌川国貞「東都両国大花火眺望」など、計30点。

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

【休館日】毎週月曜日(祝日に当たるときは翌日)、毎月第4火曜日(祝日に当たるときは翌日)、8月29日(水)、8月30日(木)

【観覧料】個人100円、団体(20人以上)80円、中学生以下無料

【会場】すみだ郷土文化資料館 向島2-3-5

【問合せ】5619-7034

●すみだゆかりの人物展示

「釣り人たちの休日展～采女・露伴～」
8月10日(金)～23日(木)、墨田区役所1階アトリウム

【問合せ】生涯学習課 5608-6310

子どもすみだ博士セミナー

●「知っていますか?すみだの偉人」

葛飾北斎や勝海舟、王貞治などの墨田区ゆかりの偉人を学びます。8月22日(水)午前10時～正午、墨田区役所、小学4年生～中学生30名(先着)、無料、8月2日(木)午前9時から生涯学習課へ、5608-6309

●「伝統の技に挑戦してみよう!からくり屏風(びょうぶ)づくり」

たてよこ両方に開いたり、1枚でいくつもの絵柄が楽しめたりする「からくり屏風」を作ります。8月25日(土)午後1時半～4時半、すみだ郷土文化資料館、小学3年生～中学生、20名(先着)、材料費500円(保護者は入館料100円が必要)、8月1日(水)午前9時からすみだ郷土文化資料館へ、5619-7034



江戸自慢三十六興 両国大花火 二代歌川広重(すみだ郷土文化資料館所蔵)

夏の風物詩 隅田川花火大会

毎年夏に開催されている隅田川花火大会は、隅田川の夏の風物詩として多くの人々に親しまれています。
明暦の大火(1657年)以後幕府は旧暦5月28日から3か月間、隅田川に納涼舟を繰り出すことを許可しました。これを川開きと言いました。
やがて8代將軍徳川吉宗の時代に疫病や飢饉が相次いで

発生しました。吉宗はさっそく享保18年(1734年)の川開きの初日に当たる5月28日、災厄除去と慰霊祭を行いました。この時初めて花火の打ち上げも公認されました。以後、両国の川開きと花火は、若干の断絶期を挟みながらも、昭和36年(1961年)まで続けられた江戸・東京を代表する年中行事と言えます。

また、昭和53年(1978年)には、隅田川花火大会と名前を変えて復活し、今日に至っています。
今年の花火大会は、7月の最終土曜日となる28日の午後7時10分から午後8時30分までです。
また、今年は第30回の記念大会となります